令和 6 年度　東京都内湾水生生物調査　12 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 6 年 12 月 2 日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は 12.8～17.2℃であった。調査地点の風向はお台場海浜公園では北の風 3.2 m、森ヶ崎の鼻では無風、葛西人工渚では南寄りの風 1.3m であった。調査当日は大潮で、干潮は 11 時 29 分、満潮は 16 時 38 分であった（気象庁のデータ）。

お台場海浜公園にて、アゴハゼが平成 9 年以来の出現となった。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	9:26-11:20	11:45-12:30	13:09-14:26
水温(℃)	15.5	18.6	16.0
塩分(-)	26.6	18.0	20.3
透視度(cm)	100 <	85.0	64.0
DO(mg/L)	5.9	5.0	7.2
DO飽和度(%)	69.2	59.1	82.8
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.7	7.3	7.7
水の臭気	無臭	微下水臭	無臭
備考			

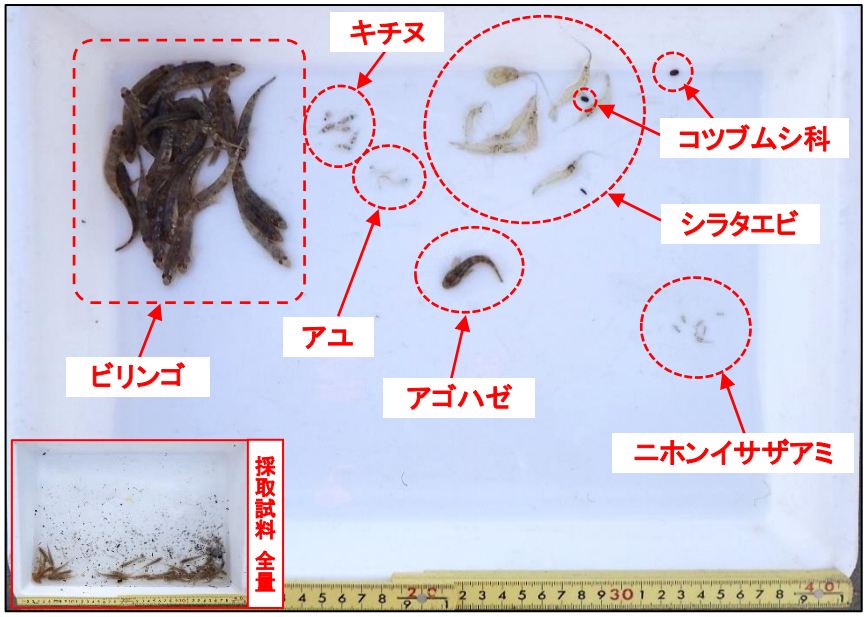
●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚種（多い順注）	ビリンゴ(c)	ビリンゴ(r)	アシシロハゼ(r)
	キチヌ(+)		ビリンゴ(r)
	アユ(r)		ヒメハゼ(r)
	アゴハゼ(r)		エドハゼ(r)
	チチブ属(r)		
魚類以外	ニホンイサザアミ(c)	多毛類(r)	シラタエビ(m)
	シラタエビ(+)		クロイサザアミ(c)
	コツブムシ科(r)		
備考			

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

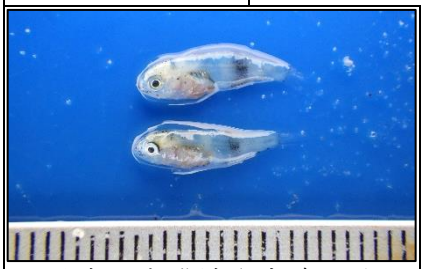
お台場海浜公園　採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

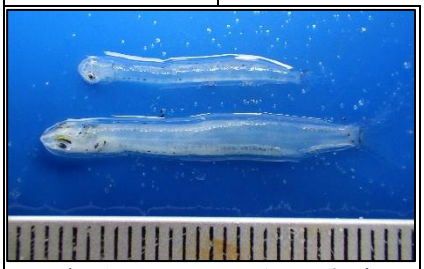
●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

キチヌ(仔魚)



沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底等に生息する。成魚はクロダイに似るが、産卵期はキチヌが 10 月から 1 月、クロダイが 3 月から 6 月であり、干潟域での出現時期が異なる。

アユ(仔魚)



夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、10 日から 2 週間後にふ化する。仔魚は干潟周辺で 3、4cm になるまで滞在し、その後、河川を遡上する。海で生活する間は体の透明感が強い。

アゴハゼ

潮間帯の岩礁域や潮だまりに生息する。雑食性で、最大 8cm ほどになる。ドロメによく似るが、胸びれに黒点が並んでいること、尾びれの縁が白くないことで区別できる。本調査では平成 9 年以来の出現となった。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水から淡水域に移動する。

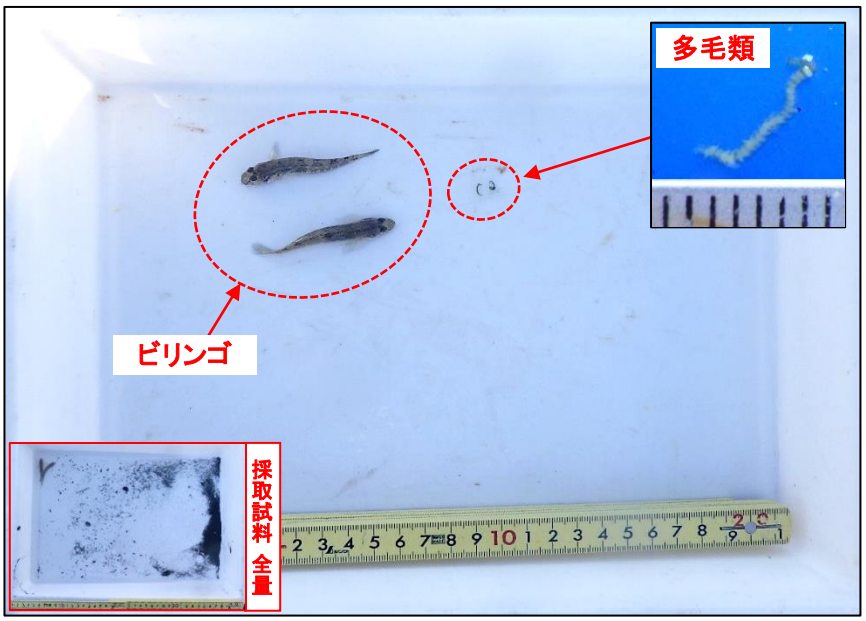
チチブ属

ずんぐりとしたハゼ科の仲間。雑食性で、転石やカキ殻の間等に多く見られる。東京湾では 6 月から 9 月が産卵期となり、干潟域や人工海浜等でふ化した大量の仔魚が浮遊生活を送る。

コツブムシ科

ダンゴムシやオオグソクムシに近い甲殻類の仲間。体長は 5～8mm で、石の下や海藻の中等に生息する。危険を感じると体を丸めて球状になる。

森ヶ崎の鼻　採取試料



羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

ビリンゴ

↑曳網中のカメラ映像。ビリンゴの姿が見える。

※解説はお台場海浜公園を参照。

令和６年２月　お台場海浜公園にて出現した個体

【婚姻色について】

ビリンゴは早春に産卵期を迎える。

繁殖期にはオスが派手目に装う種が多い。しかし本種はその逆で、婚姻色はメスに顕著に現れる。

通常、透き通るような銀色の体色であるが、尾びれ以外のひれは黒く染まり、体側には黄色の帯が走る。

葛西人工渚　採取試料

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

アシシロハゼ

鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。

ヒメハゼ

内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は5月から9 月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。下顎が上顎より突出しているのが本種の特徴。

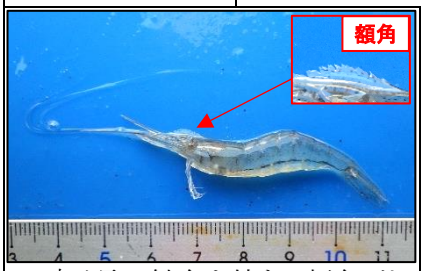
ビリンゴ

※解説はお台場海浜公園、森ヶ崎の鼻を参照。

エドハゼ

湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地曳網で採集されにくい。

シラタエビ



青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

クロイサザアミ

汽水域に生息するアミの仲間。体長 15mm ほどになる。腹部に黒色斑があり、全体的に黒っぽい体色をしている。ニホンイサザアミ同様、河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。